

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後クラブともだち		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年12月12日		2025年12月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化	各部屋ごとに遊ぶ部屋、宿題をする部屋、静かにゆっくり過ごす部屋など、「何をする部屋か」をわかりやすく設定している。	宿題をするスペースは、人の出入りが少ない奥の部屋にしてより集中できるような環境にし、よりわかりやすい提示をする。 部屋だけでなく、チャイムを鳴らすなど、時間の構造化を図る。
2	保護者会の充実	保護者の方に迎えに来てもらうことで、その日の子どもの様子を直接伝え、雰囲気などを感じ取ってもらえるようにしている。また、保護者会や保護者との環境整備活動、法人のまつりの出店、学習会(2月に予定)を実施し、保護者と職員や、保護者同士で顔の見える関係性を築けるようにしている。	保護者が参加しやすい時間帯や内容、関わりやすい方法を工夫する。
3	地域の方々との交流、参画	昨年度に続き、イベントを企画して地域の学童の子どもたちを招く、子どもたちが公民館の文化祭のチラシ作りに参画する、出展する、健康推進委員会の方に教えていただきながら一緒にお菓子をつくる、高校の音楽部の方を招いて歌を披露してもらう、散歩しながらごみを拾うなど、地域の方との交流や地域に貢献できる活動を意識的に実施している。	地域の店に買い物に行くなど、地域の方との交流に加え、挨拶やお金の計算など、児童の社会性や生活スキルの向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の生活スペースの確保	空間の構造化は意識的に実施しているが、児童の年齢、障害特性が幅広く、構造化しているとおりにはいかない点もある。また利用児童も多く、「ゆっくり過ごしたい時に、その空間に人が多くゆっくりできない」という状況も多々ある。	近隣の公民館をお借りし、児童の活動場所を分けるようにする。また、他の児童を屋外での活動や遊びに誘い、屋内でゆっくり過ごしたい児童が落ち着ける環境を作る。
2	生活スペースにおける環境的な配慮	洗面所が低く児童の身体の大きさに合っていない、空間が広く声が響く、ドアに隙間が開いていて虫が入ってくる、床がめくれているなど、建物自体の構造や老朽化からくる課題がある。	洗面所を高くする、相談室を設置する、ドアの修理など、建物の修繕等、必要なリフォームを検討する。
3	職員間の情報共有が難しい	2カ月に1回程度、職員間で会議を実施し、情報共有をしているが、全員の参加が難しい。	日頃の情報共有を充実し、支援について考える力を育めるよう、間を置かずその場その場で具体的な支援方法を伝える。